

事業所における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 2 年 1 月 23 日

事業所名 米沢市立ひまわり学園

| チェック項目  |  | はい | いいえ | 工夫している点                                 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標               |
|---------|--|----|-----|---|--|
| 環境・体制整備 | ① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である  | ○  |     |   |  |
|         | ② 職員の配置数は適切である   | ○  |     | 子どもの状態を把握した職員配置                         | 個別対応で職員の手が不足にならないように配慮していく             |
|         | ③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている             | ○  |     | 絵や写真の活用をしている                            | 視覚表示の改善や配慮事項の工夫をさらにしていく                |
|         | ④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている   | ○  |     | 毎日の清掃、安全点検の実施<br>子どもの特性に合わせて必要に応じ対応している | 遊具の消毒など徹底していく<br>集中を促すためにパネル等の活用を考えている |
| 業務改善    | ⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している  | ○  |     | 定期的に職員会議を開催している                         |  |
|         | ⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている                              | ○  |     | 保護者から意見を聞き、見直しをしている                     | アンケートの結果を公表し、改善要望等があれば検討していく           |
|         | ⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○  |     |   |  |
|         | ⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている   |    | ○   |   | 第三者評価について検討していく                        |
|         | ⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している  | ○  |     | 園内研修、公開研修会の実施、外部研修参加<br>伝達講習の実施         |  |
| 適切な支    | ⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している                                     | ○  |     | 丁寧なアセスメントを心がけ、発達段階に応じた計画を作成             |  |

|                  |   |  |   |  |   |  |
|------------------|---|--|---|--|---|--|
| 援<br>の<br>提<br>供 | ⑪ | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している   | ○ |  | 遠城寺式検査の実施   | 広く子どもたちに活用していく                             |
|                  | ⑫ | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | ○ |  | 課題、個性、強み等を領域別に見極め、個別支援計画に明記している                   | ガイドラインを熟読し職員間で共通理解をはかるとともに、具体的な支援方法を検討していく |
|                  | ⑬ | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている  | ○ |  | 職員・保護者で共通理解をはかり支援を行っている                           |  |
|                  | ⑭ | 活動プログラムの立案をチームで行っている   | ○ |  | 意見交換を交え職員が交代でチームになりプログラムを立案している                   |  |
|                  | ⑮ | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している   | ○ |  | 季節の行事等を取り入れながら子どもたちが興味を持って参加しやすいプログラムになるように工夫している |  |
|                  | ⑯ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している   | ○ |  | 支援計画に基づき活動を組み合わせている                               |  |
|                  | ⑰ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している   | ○ |  | 毎朝事前会議を実施   |  |
|                  | ⑱ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している  | ○ |  | 毎日事後会議を実施   |  |
|                  | ⑲ | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている   | ○ |  | 記録を基に支援に繋げている                                     |  |
|                  | ⑳ | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している  | ○ |  | 職員会議を行い定期的に実施している                                 |  |
| 関<br>係<br>機      | ㉑ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している  | ○ |  | 園長・担当者が参画し情報の共有を行っている                             |  |

|   |    |  |   |   |                         |                             |
|---|----|--|---|---|-------------------------|-----------------------------|
| 関<br>や<br>保<br>護<br>者<br>と<br>の<br>連<br>携<br>関<br>係<br>機<br>関<br>や<br>保<br>護<br>者<br>と<br>の<br>連<br>携 | ②② | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている  | ○ |   | 必要に応じて連携している            |                             |
|   | ②③ | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている |   |   |                         |                             |
|   | ②④ | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている             |   |   |                         |                             |
|   | ②⑤ | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                | ○ |   | 会議の開催、訪問を実施             | 十分に対応できるように心がける             |
|   | ②⑥ | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                            | ○ |   | 会議の実施                   |                             |
|   | ②⑦ | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                     | ○ |   | 関係機関と連携し、交流をはかっている      |                             |
|   | ②⑧ | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある                                      | ○ |   | 交流保育を実施<br>近隣施設での交流を実施  | 交流の機会を増やしていく                |
|   | ②⑨ | (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している                                     | ○ |   | 参加している                  | 他の事業所との連携や情報交換の場を積極的に設定していく |
|   | ③⑩ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている                               | ○ |   | 送迎の際に直接話をしたり、連絡帳を活用している |                             |
|   | ③⑪ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている                   |   | ○ |                         | 研修に参加し支援につながるようにしていく        |
| 保<br>護<br>者<br>へ<br>の   | ③⑫ | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている   | ○ |   | 実施している                  |                             |
|   | ③⑬ | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示し            | ○ |   | 同意を得ている                 |                             |

|         |    |  |   |  |  |                  |
|---------|----|--|---|--|--|------------------|
| 説明責任等   |    | ながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている  |   |  |  |                  |
|         | ③④ | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている                              | ○ |  | 定期的に面談を実施している<br>面接時には要望や困っている事がないか確認し必要に応じて助言を行っている   |                  |
|         | ③⑤ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している                               | ○ |  | 親の会の支援をしている  | 保護者が集う場所の提供をしている |
|         | ③⑥ | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ |  | 相談を受け、解決の糸口を一緒に考えている                                   |                  |
| 非常時等の対応 | ③⑦ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している                           | ○ |  | 園便り・通信にて発信している   |                  |
|         | ③⑧ | 個人情報の取扱いに十分注意している  | ○ |  | 遵守している   |                  |
|         | ③⑨ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている  | ○ |  | 配慮方法を検討し、実践している  |                  |
|         | ④⑩ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   | ○ |  | ボランティアや中学生の職場体験の受け入れをしている<br>コミセンにひまわり通信と子どもの作品を掲示している |                  |
| 非常時等の対応 | ④⑪ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している        | ○ |  | マニュアルを作成し発生を想定した訓練の実施をしている                             |                  |
|         | ④⑫ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   | ○ |  | 毎月避難訓練を行い、定期的に防犯訓練を実施している                              |                  |

|    |  |   |  |  |  |
|----|--|---|--|--|--|
| ④③ | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している  | ○ |  | 入園時と変更があった時に確認している                       |  |
| ④④ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている                                       | ○ |  | 保護者に医師の文書を見せていただき文書に基づいた対応をしている          |  |
| ④⑤ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  | ○ |  | 事例集や新聞をファイリングし共有している                     | 再発することが無いように検討し意思統一していく  |
| ④⑥ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   | ○ |  | 研修への参加<br>伝達講習<br>掲示や日常の会議等においても啓発を行っている |  |
| ④⑦ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | ○ |  | 現在必要性はないが入園時に説明をしている。                    | 今後も身体拘束は行わないが、万が一の場合は緊急時に限り保護者同意を得て対応していく<br>組織的な決定を事前にしておき児童発達支援計画に記載する |

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。